

# 会議録

## 1 附属機関の名称

犬山市観光戦略会議専門部会（第5回）

## 2 開催日時

令和3年1月14日（木）午前10時00分から正午12時00分まで

## 3 開催方法

ウェブ会議（ZOOMを使用）

## 4 出席した者の氏名

- (1) 構 成 員 服部敦、梅川智也、靱山貢、奥村好樹、片山義博（順不同・敬称略）
- (2) 執行機関 経済環境部観光課  
新原課長、小池課長補佐、大谷統括主査、中柴主事
- (3) 関 係 課 歴史まちづくり課、都市計画建築課、防災交通課 土木管理課  
（別室にてモニター視聴）

## 5 議題

- (1) あいさつ
- (2) 報告事項
  - 1 第4回犬山市観光戦略会議専門部会について（資料1）
  - 2 梅川委員との意見交換について（資料2、資料3）
- (3) 議題
  - 1 新型コロナウイルスの影響からの回復に向けて（資料3）
  - 2 犬山らしさについて
    - ・犬山らしさに関するまとめ（資料4）
    - ・犬山の水にまつわる素材まとめ（資料5、資料7）
- (4) その他

## 6 傍聴人（別室にてモニター視聴）

0名

## 7 内容

事務局

皆様おはようございます。

本日はお忙しい中、オンラインという形でございますが、出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから第 5 回犬山市観光戦略会議専門部会を始めさせていただきたいと思っております。

この度は皆さんご承知の通り、緊急事態宣言が昨日愛知県も対象地域に追加された、こういったような状況の中で、急遽オンラインの開催となりましたこと、お詫び申し上げますと同時に、今回オンラインということで、発言時以外はミュートボタンを押していただきたいと思いますので、ご協力お願いします。なお、本日の会議につきましては、お手元の次第に沿って進めます。12 時までには終了させていただきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

まず初めに服部部会長からご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

服部部会長

おはようございます。

こんな状況になってしまいましたが、会議を進めて参りたいと思っておりますので皆様ご協力よろしくお願ひします。

事務局

ありがとうございます。

それでは本日オンラインということで、5 名全員に出席いただいておりますので、会議は成立しているということを報告させていただきます。なおこの会議は公開で開催されております。今回はオンラインでこの様子を市役所 2 階 202 会議室にてモニター公開しております。傍聴の方については、会議中お静かにお願いいたします。撮影については、席からの撮影は認めます。録音については、個人のメモとしての利用に限り認めますが、切り取って公開をすることはやめていただくという扱いになっておりますので、よろしくお願ひします。会議の内容については後日、資料と会議録をホームページ上で公開する予定となっておりますのであらかじめご了承ください。会議録については、2 人の委員が署名することとなっております。前回、榎山委員と片山委員にお願いしましたので、今回は梅川委員、それから奥村委員にご署名いただきたいと思います。よろしくお願ひします。それでは、ここで事前に配布しました資料の確認をいたします。お手元に資料が届いているかと思ひます。

(資料確認)

以上になります。皆さんお揃いでしょうか。

(問題ないと意思表示あり)

それでは、次第に従って進めます。報告事項が二つあります。これについては、事務局より報告させていただきます。よろしくお願いします。

(事務局説明)

以上が報告事項になります。今の件についてご意見等ある方はいますでしょうか。

(特になし)

特にないようですので、議題に入らせていただきます。

以降の進行については、会議規則に従って服部部会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

服部部会長

それでは議事進行させていただきます。

お手元の議事次第に従い、進めていきたいと思えます。本日議事2つございまして、一つは「新型コロナウイルスの影響からの回復に向けて」、もう一つは「犬山らしさに向けて」となります。

一つ目の議題は前回からの続きでありますので、梅川委員との意見交換を踏まえて、そこで出てきた事例なども見ながら、前回の落ち穂拾いということも含めて、前半少し軽めに、コロナへの対応というところを議論していきたいと思えます。

後半、ある程度重点的に時間を取って、次年度、観光戦略をまとめていくときに、大きな課題となってくる犬山らしさをどう捉えるかという点について、しっかり議論していきたいと思えますので、この2点についてよろしくお願いします。

では、一つ目の議事、「コロナからの回復に向けて」ということで事務局の方からご説明があればお願いします。

(事務局説明)

服部部会長

ありがとうございました。

梅川先生と議論させていただいて出てきた事例を紹介していただいたわけですが、前半の議題が「コロナからの回復」ですので、今紹介があった事例のうち、特に最初の4つのところ。京都市とか沖縄の辺りが、明確にコロナからの回復に向けて、アクションプログラムを組んでいて、そういうのが参考になるのではないかとというサジェスションをいただいたということです。

コロナからの回復を考えた上で、その後の観光を考えると、やはり体制の整備と、その地域らしさというのが、結局大きな課題になってくるのではないかと。ざっくり言うとそういう議論をさせていただいたという感じだと受けとめています。この後少し梅川先生に補足も含めて、言い足りなかったこと、改めてこの部会で述べておきたいこととお話いただき、それを受けて他の委員の方々にもコメントをいただければと思います。

それではまず梅川先生からよろしく願いいたします。

梅川委員

補足ということでもないのですが、一つ大きな動きとして、地域側がコロナ対応を頑張るというだけではなく、来られるお客様、来訪客にも責任ある行動を求めるという動きですね。

国は「旅のエチケット」という形で、以前は1枚だったのですが、これが交通編、宿泊編といった形で、徐々にバージョンアップをしてきています。こうした動きが地域の方でも独自の取り組みを始めてきていると言います。今回事例として取り上げていただいた京都なども、京都まちケットといった、まちのエチケットという意味ですね、京都のまちではこうしてね、という観光客に対しての行動規範・基準、いわば観光客の行動ルールですね、を作られました。これは世界的にもそうで、レスポンシブルツーリズム、レスポンシブルトラベラーを迎えようということですね。かつては先客万来とあって、とにかく数を集めるということが主流だったのかもしれませんが、これからはそうではない。数だけを追うのではなく、地域を理解してくれるだとか、或いはその場所に行けば、自分がやりたいことができるだとか、何かそういう目的意識をきちんと持った方々をしっかりと迎え入れる。いわゆる3密を防ぐだとか、或いはマスクをするだとか、或いは大声を出さないだとかですね。そういう責任ある行動をする旅行者に来ていただくという動きが、随分大きくなってきています。それを上手くやろうとしているのが京都ですし、観光行動基準だと思えます。それをやっている京都市観光協会、DMO 京都は随分色んなことをやっています。歴史ある組織だと思いますけど、ホームページなども、ものすごくセンスが良いです。しかも科学的にやってらっしゃるのですね。数字とかエビデンスを集めて、対策をきちんと検討され、対外的にアピールしているということ

で、京都市観光協会というどうしても古臭い感じがしますが、実はものすごく先進的なことやっている組織と言うことです。官でも民でもなく、その中間にあって上手く民間事業者を取りまとめるという役割をされていますね。主体は民ですが、官と連携しつつ、そういったことをずっとやってらっしゃるかと思います。実はこの京都市観光協会は、若手の優秀な人をちゃんと入れているのですね。今盛んに言われていますが、きちんと地域をマネジメントしながら、科学的にプロモーションしていくということ、その意思を明確に持った組織ということで、京都 DMO は頑張っていますね。

もう1つご紹介いただいた長門湯本温泉、ここも資料3では、推進する組織が無いと書いてありましたが、実は DMO としては無いのですが、いわゆるエリアマネジメント組織というのはきちんとできているのです。資料3の右下、DMOは無しと書いてありますが、名前は忘れてしまいましたが、エリアマネジメントをしている組織があり、ここには経産省を辞めて入ってきた方がいらっやあって、この方と、長門市役所にいらっやする経産省からの出向の方お2人が本当に頑張っておられます。川沿いの温泉地なのですが、河川の活用をうまく規制緩和を使い、京都の川床まではいかないですが、洒落たテラスを作り、外部空間にもものすごく楽しい空間を作ってらっしゃる。川に飛び石を置いたり、そういったことをきちんとしたルールの中でやっていて、しかも短期間、ここ1、2年で整備しています。ここのマスタープランについては公開しているので、後でお送りしても構わないのですが、星野リゾートさんの進出に伴い、温泉街のマスタープランを作り、そのマスタープランを実現するために人材を集めてどんどん実現しておられます。核になる御湯（おんとう）という公共浴場なども復活させて、本当に短期間で実現されておられます。財源としては入湯税の超過課税をやっているのですが、私も関わっていた釧路市の阿寒湖温泉で10年かけて実現したものを、半年ぐらいで彼らはやってしまいました。そういった安定財源も活用しながら、川沿いの、水辺の空間をきちんと整備しています。今はコロナの関係で、外部空間が随分好まれます。狭いホテルの客室よりも旅館のゆったりした客室がいい、みたいな感じですね、広い空間、或いは一戸建みたいな離れタイプの宿泊施設が好まれるようです。長門湯本はオソト天国という外をうまく活用しようということで、随分先進的なことをやっていますので、いい事例になるかなと思ってお紹介いたしました。補足としては以上です。

服部部会長

ありがとうございます。

梅川先生のお話で、特に後半の長門湯本温泉の話は、この後の犬山らしさの話にもかなり関係してくるだろうと思いますし、体制の話はまた犬山らしさの話に絡めながら、後程ゆっくり議論したいと思うのですが、主にコロナからの

回復というところを考えながら、事例の中では対コロナということで、ターゲットの変更みたいなことを迫られて、いち早く対応しているところもあります。責任ある観光行動をとる人、もしくは、非常に特化した、観光のターゲットに絞り込んでということで変わってきているところもあるかと思えます。委員の皆様には、前回10月に会議をしまして、その後またコロナの状況もいろいろ変化をしてきている中で、最近お考えになっていること、また最近取り組まれていることをご紹介、ご意見をいただくという形でお話いただければと思います。

それでは奥村委員、片山委員、初山委員の順にお話をいただければと思います。まず奥村委員からお話いただいてよろしいでしょうか。

奥村委員

会議所は、全職員の3分の2以上は、また緊急事態が始まったことで、協力金、補助金、給付金等、事業所へのフォローといたしますか、書類作りに翻弄されているのが現状です。特に小規模事業所が犬山市内ではほとんどですから、会議所では商工会の役割が今大半を占めているのが現状で、中々観光にまで手が追いついていないです。ただ、会議所の今年度事業計画から、桃太郎絡みの木曾川沿線の開発に、3年4年かけて着手し、そこを起爆剤にして、色んな物づくりとか、観光の人をそちらへ呼び込むだとか、そういったことを様々な知恵を絞りながら始めています。

簡単に言うと、今auの商業フィルムを桃太郎絡みで色々やっていますが、そこに是非犬山へも来てもらう。そういったような動画を今作っています。それを今後、auの方に持って行き、要望し、商業化してもらおう。あとは流行っている映画のことも踏まえて、動画を持って行こうという作戦といたしますか、手法を取ってまして、少しでも知名度を上げようということをやっています。ただ、いかんせん色んなルートマップなどを過去に作っていますが、自転車のルートマップとか、歩いていくとかですね。あと例えば、入鹿池がユネスコ絡みの世界遺産になっていますので、そういったところも含めたルートマップも作ったことがあります。そこにいくまでの整備ですね。道路整備とか歩道とか、それができていないですから、そこを歩こうといってもなかなか歩けない。今城下町の駅前通りを、皆さんグリーンロード帯を歩いていますけど、滅茶苦茶になっていますよね。きちんと整備をしたいと要望もするのですが、そこへ行くまでの間がなかなかできていない。当然木曾川の桃太郎までの道もそうですね。ルートマップ作りも非常に大切だからと作ったものの、まず整備をやった上でルートマップを作成したら成功したのかなと思ったりしました。

後は、先ほど先生がおっしゃった京都のまちエチケット。これは非常に城下

町を見ていても、京都が最初にそういったものを作られて、成功していると思うのですが、店によっては商品が汚されているとか、それは京都でも色々と聞きましたけど、実際犬山でも聞いたりします。それとまちエチケットについては、特に城下町についてもコロナで非常に人が減っていましたが、また人が増えてきています。今回の非常事態宣言前の、先週正月の日曜日は全体から見れば減っていますが、かなり来ています。ですから、どうしても景観が良く、電線の地中化によって天井が無くなり、圧迫感も無くなりましたので、密を避ける意味でも、かえって人が出てきているのかと思います。そのため、こういったまちエチケットについても、徹底していかないといけないかなと真っ先に思ったところです。

服部部会長

ありがとうございます。

片山委員いかがでしょうか。

片山委員

観光協会といたしましては、先回の会議の中で、犬山観光のほとんどが止まってしまったと。その中でも、県の Love 愛知キャンペーンや国の Goto トラベルが7月ぐらいから立ち上がり、徐々にコロナも落ち着き始めた感もありましたから、それを最大限に取り込んで、観光協会として販売促進に繋げていこうという話で、7月8月は協会としてもやりましたし、伝道師として私もさせていただいていました。7月8月9月は、城下町や、犬山市内の大きなテーマパーク、ビジネスホテルについては、名鉄犬山ホテルさんは廃業、休止状態にあります。そういったキャンペーンの動きが徐々にはあった状況で少し復調の兆しがありました。しかし、第1波から始まり、ここにきて今回の第3波にあたり厳しい状況を余儀なくされているのが現状です。ちょうど1月の10日あたりに令和2年の宿泊統計ができたものですから、概算ではありますけど、お話をさせていただきます。

令和元年は、犬山ホテルもありましたから、全体で11万人ぐらいお泊まりいただいていたのですが、令和2年は3万1000人。Goto トラベルの7月から9月、Love 愛知キャンペーンもありながら犬山全体では3万1000人となっています。3分の1以下となっている状況です。テーマパークも、当然半分ぐらいに減っている状況ではありますが、修学旅行などのグループが来ていたということで、半分以下に収まった状況であります。そういう状況の中で、名鉄の新しいホテルが建つというところで、やはり新しいホテルを基盤に新しいプランを開発できるか名鉄さんとも動いています。あと、名鉄グループさんだけではなく、来年に向け、JRグループさんとも愛知県に来てもらうプランを開発していただくことが決まっています。新幹線で名古屋に来て、最後は名鉄さんで来

てもらおうということで、JR×名鉄というキャンペーンを JR さんも待っていますので、今、協会としては誘客するための開発、というか PR をさせていたでいて、また犬山城を中心とした共通チケットを名鉄とは別に JR と開発しているところでもあります。

いずれにしても、来年ホテルが新たにできます。7月ぐらいにはオープンすることが分かってきていますので、日帰り客だけでなく、泊まりのお客も含めて、PR していききたいところです。城下町は相当売り上げが減っているということで、単に PR するだけでなく、EC サイトを協会独自で作らせていただいて、単独ではできないですから、愛知県のチーム愛知元気アクションと言った、プロジェクトと今タイアップして実施したいと思っています。クラウドファンディングを基にした EC サイトになりますけど、今 40 件ほどの募集をさせていただいている感じになっています。これも期間限定のプロジェクトになりますので、今後は単独でも犬山にカスタマイズした EC サイトを立ち上げ、少しでも市内の店舗の皆さまにご利用いただけるようにしていきたいというところでございます。

服部部会長

ありがとうございます。

今お話ありましたが、インディゴさんは、7月の開業ということで、既に情報が出ているのですでしたか。

片山委員

今私が申し上げたのは、インディゴさんではなく 駅前の方です。インディゴの方はそれプラス半年後ぐらいとお聞きしていますが、詳しくは 靱山委員からお聞きしたいと思います。

服部部会長

駅前の方が 7月ぐらい開業予定と聞いていらっしやって、インディゴさんが半年ぐらい更に先ということですね。わかりました。

では 靱山委員、お願いいたします。

靱山委員

まず、先ほどのホテルの話からですが、まだ正式に発表はされていませんが、駅前は今秋ぐらい、インディゴは来年の春ぐらいといった感じですが、改めて正式にプレスリリースの方はさせていただきます。

今までのコロナの関係で言いますと、先ほど 靱山委員の方からもありましたが、確かに Goto キャンペーンで 10月の秋口、10月、11月の前半中盤ぐらいまでは、非常に効果が大きかったです。私共のグループは、レジャー系、ホテル系が多いのですが、その中でも前年を超えるような収益のところもありましたので、相当な効果がありました。ただはつきり言いまして、それ以降の 11月



の後半からは全くその効果もなくなったので、今非常に厳しいというのが現状でございます。そういう中で、このコロナの後をどうしていくかですが、この梅川先生との意見交換の中でもありますけど、いきなり人が来るということは、中々このコロナが、明日から全員不安がなくなるなんてことはありえないと思いますので、徐々にターゲットを絞り、ターゲットを変えながら、観光戦略を展開していくのがいいのかなと思います。当然、今 Goto が止まっていますし、政府がどのように動くかわかりませんが、ある程度コロナが収まってきて、あと東京オリンピックがありますので、その辺をターゲットにして、もう 1 回、今と同じ形なのかどういいう形で出てくるのかわかりませんが、Goto キャンペーンに類するような、施策が展開された時に、犬山として遅れをとらないように、片山委員からもありましたが、色んな商品を仕込んでおくというのは大事な事かなと思います。本当に秋の Goto キャンペーンの際は、あっという間に予約が入るといような状態でしたので、それは他の地域の近場のお客さんを狙ったとしても、長島温泉に行く人もいれば、京都に行く人もいれば、いろいろあるかと思いますが、その辺で犬山を選んでもらえるように、今のうちから準備はしておくべきかだと思います。

ただこれ個人的な感想なのですが、確かに外に出ることに対する不安はあるかと思うのですが、Goto キャンペーンが停止となった瞬間に、去年まであった、例えば年末年始の規制以外のニーズというのも消えたというのが、そんなものなのかなと。別に定価で行っていただいてもいいのですが、そういうのまで全て消えたというのは、このコロナというのが、皆さんの行動、意識に対して、ものすごい足枷になっているというのは肌身で感じました。私も中々まとまったお話ができませんけど、順番に開いていく中で、犬山をどのように日本の全国、世界に PR をしていくかということだと思います。その中で少し個人的な話ですけど、愛知県というエリアで考えれば、来年 22 年の秋にジブリパークができます。これは着々と今プロジェクトが進んでいると思いますので、これが遅れるということはないと思います。このインパクトを、アフターコロナの中で、愛知県の中の広域という意味で、どっと取り込めるようなのが、コロナの心配もなくなり、皆さん動き出しますという中で、日本の相当なキラーコンテンツですので、その辺どうまく組めるような、愛知県自体もそういう動きはされると思いますけど、そういう流れの中で、日本全国、当然世界もターゲットになりますので、その辺も見据えて、徐々に観光を復興させていくという流れがいいのではないかと感じております。

服部部会長

ありがとうございます。

委員の皆様からご意見いただいたところで、梅川委員、何かコメントござい

梅川委員

ますか。

インバウンドについても、この状況がずっと続くわけではないと思います。IATA という国際的な航空輸送の組織があるのですが、そこではこれからどのように国際旅行客が戻ってくるかということ进行调查しているのですが、コロナ前の状況に戻るには2024年ぐらいではないかと言っているのですね。多分、国境を開いたり閉じたりという何回か波があり、かつての状況に戻るには2024年、そんなような感じなのだと私も思います。ですが、その間ずっと、じっと何もしないわけにはいかないので、今おっしゃったように少しずつインバウンドが来た時のために準備をきちんとやっておく、むしろやっておかないといきなりというわけにはいけません。仮に2024年に2019年のレベルになったことを想定して2023年は何をやる、2022年は何をやるのか、こういう段階計画、いわゆるロードマップを作っておくのがいいだろうと思います。

服部部会長

ありがとうございます。

梅川委員がおっしゃったように、段階的にどうターゲットを変化させながら、犬山がどういう観光戦略をとっていくのかという意味でのロードマップを、段階的に各年度を想定しながら、少し中期的に3、4年という期間を見ながら、ロードマップづくりをしていく必要があるのではないかという指摘が一つあるかと思えます。

それから、梅川委員のお話に出てきた、責任ある観光行動。そういうツーリストというところに、ターゲットを少し変化させている観光地があります。沖縄とか、京都とか、非常にビビットに感じられているのだらうと思います。その話は今のロードマップの中で観光のターゲットを変えていくというのは少し別に、コロナを経たことによって、観光のあり方自体が、その地域の中で大きく変化すると、それはもしかすると恒久的な影響を与えるのではないかと。そういう、これまで本当はエチケットとかやらなきゃいけなかったところを要求できなかったところがあったかもしれないけれど、このコロナを契機として、エチケットがちゃんと取れるような観光行動ができるターゲットにシフトしていこうというようなことが、これを契機に起こってくるのではないかと。その辺にちゃんと対応できるところと、できないところで観光地の質に大きな差が出てくるのではないかとと思われるところもあるので、コロナを機に、特に恒久的にポストコロナを考えて、どういうところに舵を切れるのか、ここまでゼロベースにならなければできなかったことってあるわけです。まさに災害が起きないとまちづくりが1から見直しできないというのはよくありますけど、コロナはある種、観光にとって大災害だったわけで、大災害があったからこそ1

から見直しができるところが本当はあるはずで、そこでちゃんと対応できたところと、できないところに大きな差が出てくるのだろうという感じを梅川先生のお話を聞きながら感じておりました。

梅川委員

少しいいですか。

犬山に来ていただければ、安全・安心だということを「見える化」をしてあげることが重要だと思います。これ、京都でもやってらっしゃるのですが、ここは安心ですよ、ちゃんとした基準に基づいて感染対策をしていますということをしちんと見える化をして、店頭に表示したり、マップにしたり、こういうことは意外とお客さんは見てチェックをしていますよね。ここであれば安心して、家族も連れていけると。特に今回のコロナでシュリンクしているのが中高年の女性です。これまでは一番ボリュームゾーンだったところがぐっと減ってしまっている。だからこの人たちに少しでも安全かつ安心して旅行してもらうためには、そういったきちんと対応していることを見える化をしてあげることが重要なのかなという気がします。

服部部会長

ありがとうございます。

後半また議論が出てくるかと思いますが、ちょっと犬山らしさの議論に移らせていただきたいと思います。

去年の親委員会の時にも何度か意見が出ていたのですが、やはり観光戦略をしっかり立てていく上では、他の地域との差別化という意味で、犬山らしさというのは非常に重要になってくる。実はそこがはっきりしているようで、はっきりしてないようで、実はまだまだ議論が尽くされていないのではないかといいところがありましたので、今回少し議論ができればと思います。

先ほど梅川先生の例示の中にもあった長門市ですけど、星野リゾートという黒船に対して、ちゃんと地域としてのアイデンティティを立てなきゃいけないと星野リゾートに迫られてということもあったと聞いていますが、地域らしさを立てなきゃいけないのであいう計画を立てて、矢継ぎ早に対策を打ち出してきている。それによって、地域が活性化しているという状況があると聞いています。まさに、犬山もインディゴを黒船と呼んでいいかわかりませんが、大きく宿泊の状況に変化が生じるときに、どう犬山らしさを打ち出して対応をしていくのか、非常に重要な時期に来ているのではないかと思いますので、犬山らしさについて少しお話をさせていただければと思います。

では、事務局の方から資料が用意されているかと思いますが、簡単にご説明いただきまして、その後、委員の皆様から、犬山らしさをどう捉えているのか、出し切れていないのであれば、どう変えていかないといけないのかとい

たところを、お話ししていければと思いますので、まずは事務局の方からご説明をお願いいたします。

(事務局説明)

ありがとうございます。

最後に紹介のあった資料7ですが、私の方で作らせていただいた資料ですので、簡単に説明させていただきたいと思います。

犬山らしさを議論するにあたり、事務局の方で色々コンテンツを紹介していただいたのですが、バラバラと多岐に渡っても中々テーマが見えてこないところもあり、資料の中にもありましたが、一つのテーマとして水があるのではないかということでまとめた資料です。これは以前から、犬山らしさとは何かという議論を色んなところでしていると、水というのが共通して出てきたというのがこれまでの経験としてありまして、そういう意味で、その水を少し取り上げています。特に城下町が今、スポットを浴びているわけですけど、犬山市を全市的に捉えた時に、それをまとめ上げるようなテーマはどこにあるのだろうかといったところに、水が一つあるのではないかということで考察したものです。少し行間が間延びしてしまい恐縮ですが、ご覧ください。

自然、歴史、文化、社会の様々な面から考察が必要と言っていて、まず犬山は扇状地ということで、木曾川が濃尾平野に流れ出るまさに扇子の頂の部分と、非常に特徴的な地形を持っていて、その始まりになるというところで、まさにそうであるからこそ、荻生徂徠、志賀重昂といった歴史上の人物が、日本ライン、白帝城と名付けたような風光明媚な資源があったということです。その地形を踏まえまして、歴史的には木曾川の物資のまさに集散地として、下町と我々呼んでいますけれど、材木町とか、そういうところがまず発達していった。そのあと、天然の要害だということで織田氏が城下町を形成していくことになるわけです。更に江戸幕府の幕府直参の御付家老として成瀬様が犬山に来られる。これは他の尾張徳川の家臣とは違う位置付けです。江戸幕府から直接御付家老として任命されて成瀬様は来られていますので、他の地域と少し違います。そういう経緯もあり、明治維新後、犬山藩から犬山県が一時期できたというのがあって、愛知県の中で少し別の位置付けを持っている特別な地域であるということです。以上の歴史を踏まえながら、日本ラインを資源に、尾張の奥座敷として観光地を形成してきた歴史がある。文化を見ると、1300年に及ぶ鶺鴒。これはまさに木曾川を資源としているわけです。日本ライン下り、犬山祭とございますが、犬山祭は以前、この車山の上の部分に川に浮かべて川祭りをやっていたということもあり、川とも縁が深いです。もっと昔ですと、夏

にやっていたということで、実は木曾川沿線で夏にやるお祭りは全部繋がっていて、実は祇園祭系列です。祇園祭に繋がる蟲送りというか、疫病退散のお祭りの流れを組んでいるわけですし、そういう歴史的な経緯もある。さらに、社会的なところに目を移すと、木曾川の水の中継地点として、愛知用水、県営上水道、名古屋上水道等々の取水口になっている。犬山で採られた水がこの地域全体を潤している。かなり広域に潤しているところがある。非常に特徴的な犬山頭首工というダムがあり、これは農業的には相当すごい技術を使っていて、農水省の方々はいつも自慢するのです。それから国内最大級の農業ため池があり、ユネスコの世界灌漑遺産になっている。また、堀川の掘削というのが、犬山を起点に行われていて、名古屋の熱田とを結ぶ大水路がある。ある種名古屋の都市の発展というのは、この犬山からの大水路があったからこそでき上がったのだと。堀川掘削のおかげで舟運灌漑が進み、名古屋の発展は実はここにある。

最近、評判の那古野四間道という地域がありますけれど、まさにこの堀川で繋がっていて、名古屋の観光地と犬山は非常に繋がっているわけです。そういう流れというのも、うまく使っていけば、那古野四間道と例えば連携するという話になるのではないかと思います。こういう水の恵みがあったからこそ、例えば下流地域の守口大根というのは、この用水ができたことによって発展していった産物ですので、守口大根も決して無関係ではなく、水という点では結ばれてくるのではないのでしょうか。その他、桃とか田楽とかこんにやくとか鮎とか、地酒とか地ビールとか色々ありますが、これは犬山の水の豊富さ、水の良さというものが一つ繋がっているということです。

城下町で何を売るかとか、色々あるかと思いますが、一つ通呈するテーマみたいなものがやはり必要で、その時に例えば一つ、この水のよさ、豊かさ、歴史的にも社会的にも自然的にも非常に特徴を持ったものであるというところで、繋がりを作っていくというのが非常に重要ではないかと思います。特に最近のSDGsという考え方からしていっても、持続可能な観光地づくり、社会形成というところでも、水のテーマというのは非常に親和性があるのかなと思います。

色んな方々と少しお話をしてきたことを、少し根拠を持って、一度まとめてみようということで、まとめてみた資料でございます。

ご用意した資料は以上ですが、この資料を踏まえ、犬山らしさについて皆様からご意見、日頃考えていること、また、こうした方がいいのではないかと、ご提案も含めていただければと思います。こちらは順不同でございますが、どなたかご意見、お話いただける方に挙手いただければと思いますがいかがでしょうか。

片山委員

片山委員お願いします。

犬山ならではの観光というのは、もちろん城下町や犬山城ですけど、木曾川だと思っています。愛知県で川を起用した観光をできるのは犬山だけでないかと思っています。鶯飼もありますし、残念ながら今は無いですが、ライン下りが7年ぐらい前にはあり、少し料金的な面で集客が難しかったのですが、川から犬山城まで延びる観光というのは、非常に良いものだったと思います。最近、観光課の方で誘客多角化事業を使い、遊覧船事業をやるという計画もあるみたいですので、どんどんPRしていければと思っています。

あと、先ほど先生がおっしゃったように、名古屋市民が飲んでる水というのは木曾川の水ですよ。名古屋市民の方がどれだけ知っているのか分かりませんが、大治浄水場って下流でも作っているのですが、まさに名古屋市民は犬山の水を飲んでるのですよ。鶯飼なんか乗ると、そこは名古屋の取水口だと説明がありますが、やはりそういった部分もPRしながら、観光誘客をやればいいなと思っています。

あと木曾川河畔上流の景色も良いですよ。毎年秋になると、寂光院の交通整理をやっている関係上、目の当たりにしますが、昔はあまり歩いている人はいなかったですが、今は多くの人歩いています。今だと、健康ブームですので、ジョギングや、ウォーキング、サイクリングなどを行っている人がおられます。そういった方々は帰りに城下町に行くという話ですから、良い観光だなどと思っています。ただ残念なことに、歩道が無かったり、交通量が多かったりということで、危ないという話もいただいています。お金がかかるし、県が動かないとできないと思いますが、栗栖に繋がる観光活性という面では、インフラも大変重要だと思っています。

服部部会長

ありがとうございます。

今お話に出てきましたし、先ほど奥村委員の話にも出てきましたけれど、昨年観光庁の交付金を申請、採択されて、木曾川の観光、船を使った観光について取り組みがあったと思うのですが、その状況について少し事務局の方からご紹介していただけますか。

(事務局説明)

服部部会長

今の話も踏まえて、梅川委員いかがでしょうか。

梅川委員

今のお話の追加になりますが、たまたま誘客多角化事業のお手伝いをやって

いまして、これ観光庁始まって以来の事業なんです。観光庁の事業は大半が6割地元負担だったのですが、これは100%国費、しかも最大2000万というかつてない事業です。それに100億の予算が付いたものですから全国で400カ所以上採択されます。当初はコロナによって中止になったイベントやお祭りが沢山あり、それを補填しようという割と安易な考え方の事業だったのですが、これからの新しいコンテンツづくり、特にコロナに対応した、安全・安心なコンテンツをきちんと地域で作っていかなければ駄目だということを委員が言い出しまして、段々と事業の中身が変わったのです。それに犬山市さんも応募して、見事事業が受託されたということですね。3000近い応募、もう少し多かったかもしれないですが、その中で今500ヶ所ぐらいがやっているかと思います。第一次、第二次募集があったのですが、いずれにしても事業期間が短いという課題はあるものの非常に良い事業ではないかと思います。来年度も実はこれに似た事業は続きますし、今年度予算の3次補正で犬山市にぴったりの事業があるのです。この事業とても大きくて、5億近い事業費があります。観光施設を上手く使った、観光施設の再生を絡めた事業がこれから立ち上がるのです。これは後でまた別途ご紹介いたしますので、検討いただければと思います。

犬山らしさの話を続けていたしますが、服部先生の水に注目しろというのは非常に面白いと思っています。実は吉田初三郎の絵がずっと私の頭の中にあって、やっぱり木曾川なのかと思っておりました。木曾川の色んな恵みだとか、それからちょうど濃尾平野に出てきたところで、立地として良いところだったので、物流の拠点なり、町が開けたというような形だったのかと、水ということで見ていくと、色んな繋がりが出てきます。もう事業としては終わってしまいましたが、例えば日本遺産などでもストーリーが重要だということでしたが、そうした地域のストーリーづくりという面でもびったりだと思い拝見しておりました。先ほど小池さんが分析された、校歌の歌詞の中に青が多かったですね。これ何かと考えたら、やっぱり水、川みたいですね。そうすると、青が一番多いってことは、犬山市の市民の皆さんにも、水というのは、潜在的な資源として、認識されていたのではないかと考えまして、非常に面白いアイデアだと思いました。それから志賀重昂です。日本風景論という本を書かれた方で、明治時代に、福沢諭吉の学問のすすめか、日本風景論かというくらい大ベストセラーなのですが、要するに、日本がどれだけすばらしい資源を持っているかというのを書いた方なのです。だから日本ラインというのは、随分と大きなネーミングだとは思っていました。確かに志賀重昂が付けたという話も聞きましたが、結局、当時もインバウンドを進めて外貨獲得をしようという国家戦略があったのです。日本はこんなにもすごい資源を持っているのだと、そこで海外から観光客に来てもらって外貨獲得をし、日本は日露戦争で大借金を

していますから、返済にも充てようというような、国策に絡むような話ですよ。そういった背景なども含めて、ストーリー化されているので、とても僕は素晴らしいアイデアだなと思いました。しかし、水というと一般名詞に近いので、犬山らしさというのをどう言葉として表現していくか。ここがこれからの工夫の一つしどころかなと思いました。

服部部会長

ありがとうございます。  
奥村委員いかがですか。

奥村委員

水については私もそう思います。

是非先ほどの誘客多角化事業で、入鹿池も木曾川観光さんではないのですが、何かないかと思えます。あそこは世界灌漑施設遺産になっていますので、あそこを利用した何かができないかと思っています。色んな知恵を使い、会議所独自に目録を作り、収集しようとか、そういった計画や考えはあったのですが、中々できていなく、いずれにしましてもその世界遺産については、何とかしたいという考えを強く持っています。

それで犬山らしさの話ですが、先ほど先生がおっしゃった自然文化等々あるのですが、今これだけ知名度上がったのは、市観光協会、市役所、会議所等の協力によって城下町に反映しています。電線の地中化など色んな手法を使われている所が多いのですが、一番困っている飲食店さんは城下町の方でもかなりいて、疲弊し、助けて欲しいといった問い合わせで、日々私どもの指導員も、骨を折っていますが、そこも犬山らしさの一つにならないかなと思います。以前は箱物だけで、例えば犬山城を見に上がったものですから、ランチ難民ということで、かなり叩かれました。私どもが、地域のお店側の方を連れて、城下町の城前広場で、毎週土日に飲食店を作ったのです。ランチ難民を何とか少なくしようとして、その後に城下町にもかなり店ができ、がつつりした食事は取れませんが、それを多分楽しみに来られている方が大半を占めているのではないかと思っています。ですから、犬山らしさの一つに、今の時点ではそういった飲食店も新しい観点から入ることができるのではと思いました。

服部部会長

ありがとうございます。  
榎山委員いかがでしょうか。

榎山委員

地元の皆さんから見ると、私のように出身が真逆の知多半島の方の目では違うと思いますが、はっきり言って、イメージとしては名鉄がやっていますモンキーパークだとか、テーマパークといえるのか遊園地から明治村、あとはお



城というイメージが強いかと思います。

ちょっとこれは定かではございませんが、インディゴが来るのも、犬山城と有楽苑という 2 つの国宝が目前にあるというロケーションがかなり評価されたのは、当然外国人の目ということで、そうなのだろうと思います。

服部先生の、水の話も非常に面白い話で、梅川先生がおっしゃるように、ストーリーが作れると思いますので、そこにお城だとか、有楽苑は持ってきたものなので、中々無理やりになってしまいますが、一番わかりやすいコンテンツとしてお城をメインに据えて、その周辺を水ですとか、木曾川も含めて、犬山市の独特な文化みたいなもので、包含するような上手いストーリーが書ければ、非常にわかりやすく、要は深く勉強しなくても、外国の人にもわかりやすいストーリーを描ければ、非常に犬山を皆さんに知ってもらい、PR するというところで、興味を持ってもらうということになるのではないかと思います。ただそれは口で言うのは簡単ですが、中々今まで色んな取り組みをされている中で、やはり城が目立ってしまうということになってしまうのかなという気はしますが、そういう部分ばかりではなく、市の方に色々と資料にいただいた、埋もれた資源というのか、こんなものもあったのかというのを掘り起こしながら、メインのコンテンツと、それを紐づけて表に出すような、そんな取り組みも当然やっていかなければいけないのかもしれませんが、そういうのを具体的にいくつか作ってくのがいいのではないかと思います。

服部部会長

ありがとうございます。

例えば有楽苑なんかも有楽齋で、お茶の名人ですから、水と非常に関連性のあるところで、ストーリーをうまく繋げていくとかなり豊かになっていくので、繋げ方があると思うのです。まさにお城があそこに立地したのは、木曾川があったからで、木曾川があったからこそ、天然の要害としてお城が生まれたということもあり、関連付けというのは、かなり根拠を持ってできるかと思えます。一方で、やはり犬山城とか、古くから日本の数少ない国宝のお城として価値付けされていて、それによって非常に有名になってきたというところがやはりあって、今犬山の城下町などは、世界遺産と関連付けたりして、価値付けがしっかりしているからこそ、波及力があるのだろうと思います。そうやって考えると、日本ラインなどは、志賀重昂が位置付けた時は非常に有名になったのだけれども、だんだん知名度が下がってきていて、実は非常に価値はあって、地形的にも、文化的にも、歴史的にも価値はあるのだけれど、価値付けの努力が、少し足りていなかったのではないかとと思われるわけです。お城から例えば木曾川を見たときに、あそこに見える風景が、一体どういう意味を持っているのかというのは、みんなよく知らないです。対岸に山があり、その横に少し水

のたまり場があるのですが、あそこが昔の最初の舟運地だった頃の港だったかですね。そういうことをみんな知らずに見ているわけです。でも逆にそれをしっかり価値付けして、解説できて、意味があるとする、風景の見え方が違ってきて、訴求力が変わっていくというところがあるわけです。そういう意味で、犬山は古くから今に至るまで、船の舟運であり、それからまた物資の集散であり、また取水場として地域を潤してきたというところがあり、水というものが一貫して、繋がり、歴史を作ってきて、今の状態、社会にもしっかりと恩恵を与えているということ言えば、例えば、文化財法でいうところの重要な文化的景観があるわけです。重要な文化的景観という文化財で、犬山の風景をしっかりと価値化して位置付けていけば、お城に匹敵するような形で、犬山の風景をしっかりと訴求していくことできるのではないかと思います。

これ、最近少し犬山市の方に申し上げているのですが、例えばそういう文化財の一つの類型を使い、今までにない発想で、犬山の潜在的な資源価値をしっかりと価値付けし、訴求していく。こういうのがすごく大事なのではないかと思います。

今回の観光戦略の一つの狙いとして、特産物がない犬山に何とか特産物という話があるわけですが、特産物というのは、ストーリー性がないとできないわけです。犬山のストーリーとはなんだろうか。そのストーリーの中で位置付けていかないと、バラバラと個店が何かを作ったとしても、大きな流れにはなっていないです。例えば、その水というのが評価されていけば、先ほど言ったように、犬山にあるお酒、豆腐、守口大根など、様々なものが一つ大きな価値として繋がっていくことがあるわけで、特産物開発とか、そういうのも、大きなストーリーの中で位置付けていかないと大きな力を持たないというところがあると思いますので、そういう価値付けの努力というのを、少し時間がかかりますが、戦略というのは短期的にやることと、少し長期的に腰を据えてやること、両方必要になってきますので、そういう価値付けの努力もやはりしておくべきではないかというのが私の意見です。

一通りご意見いただきましたが、まだ少し言い足りないことを言っておきたいなどございましたら、まだ時間ございますので、いかがでしょうか。

梅川委員、一通り聞かれていかがですか。

梅川委員

例えば、見るということが一つの大きな柱、戦略的にその水を活用してという話になると、この体系の資料6の話ですね。この体系の整備も、そういった水に関する施策だとか、或いは施策の方向性など、こういったところからどんどんその水の話が入ってきます。だから、こういう一つのコンセプトを決めるということと、これを実現するための施策というのが、きちんと対応して

いかないとまずいわけですが、そうすると、これは次回の話になるかもしれませんが、この体系整理というのが少し気になっていて、今のこのストーリー、シナリオをうまく実現させていくためには、この整理で果たしているかどうか、これを検討しなきゃいけないのかな、なんてこと思いました、もっとこの水をうまく活用するような方向性というのか、水をテーマにしたストーリー展開がどんどん入ってくるというイメージですね。そんな印象を持ちました。

服部部会長

ありがとうございます。

戦略で、全部それをやり切るのか、戦略で課題として出しておいて、更にそこから先のアクションプログラムみたいな形で、展開していくべきところがあると思うので、戦略で全てそういうことがやれるかどうか心もとないですが、少し体系整理も見直しながら、議論できればと思います。

他何かございますか。

奥村委員お願いします。

奥村委員

今の水に特化した内容ですけど、ここだけは言うておかなければと思いましたが。私どもは栗栖について、年度当初から会頭も言っていますが、桃太郎絡みですから、キーワードは桃です。桃というものを使って今後、特産品開発を同時に進めたいと考えています。桃は桃太郎ですから、川から流れてきたと同じようなストーリー、近隣の市町含めてストーリー開発も含めて、この水の桃を使い、特産品開発に力をこれから入れていこうという動きで進んでいるのが現状です。それを少しお話ししようと思いましたが。

全く別の話しになりますが、先ほど有楽苑の話がちょうど出ましたのでお聞きしたいのですが、前の懇談会の際に有楽苑は確か東京の有楽町にあって、そこから移転されて持って来られたという話でしたが。

服部部会長

有楽苑は元々京都ですね。

京都の建仁寺にあったのですが、東京の有楽町は、有楽齋がそこにいたという関係があって、有楽町という名前になっています。有楽齋との関係はありますが、有楽苑自体は、有楽町には無かったです。もともと建仁寺にあって、その後大磯に行って、それから犬山に来ているといった歴史です。

奥村委員

ありがとうございます。

服部部会長

梅川委員、前回の意見交換の中で、組織の話がすごく重要だという話をさせていただいて、今日の冒頭にもありましたが、実は次回の体系整理の中でも組

織の話をどう書くのかというところが、一つ課題かと思っています。以前から先生はDMOの関係で、以前の観光のあり方と、最近の観光のあり方は大きく変わってきていて、その変わってきた中で、別に新しい組織を作るかどうかということではなく、これからの観光の推進組織として求められる新しい課題があって、それは犬山も進めていかなきゃいけないというところがあるかと思うのですが、次回の少し議論に繋がる形で、先生が今見ておられて、組織の問題として、ぜひ議論しておいた方がいいというところがありましたら、課題出しみたいな形で、少しご意見いただければと思うのですがいかがでしょうか。

梅川委員

特にこのコロナ禍において、DMOに差が出てきたのかなという印象を持っています。先ほどの資料にありますけど、観光衛生マネジメント、こういったことはDMOの役割だときちんと認識をし、官と民を上手く繋いで、お客さんにはこういうことをお願いしよう、事業者に対してはこういうことに注意してもらおうといったことを、きちんとなマネジメントすることが、DMOの役割として出てきたというのは、すごく重要なことだと思います。なかなか行政だけではできないと思います、民間だけでもできないとなると、DMOのような行政と民間の中間にあるような、観光推進組織が観光事業者をまとめて、消費者に対して、安全安心だということを見える化をしてあげる、そんなことが全国で起こっているのです、犬山でもそういった形になっていただければと思っています。

話しが変わりますが、画面共有はできますか。

服部部会長

事務局の方が画面共有をすれば共有できますよ。

(資料を画面に共有)

梅川委員

これからの観光推進体制はどうあるべきかということですが、図の左側が今までの観光推進体制、観光ですから当然ながら民間、つまり観光産業が中心にあるのですが、いわゆる観光課などの行政といわゆる観光協会といったところですね。この3者がずっと観光振興をやってきたというのがこれまでの観光推進体制だったと思います。それを右の方に移していく必要があるのではないかというのが私の意見です。当然ながら観光ですので、民を主体とする事業ではあります。だから観光産業が中心になるのは当然なのだけど、その周りに、観光関連産業、或いは農協、漁協、商工会議所、或いは焼き物、織物、そういった地場産業。それからいわゆるまちづくりをやっている一般の市民の方々、それから国際交流をやっている団体ですとか、こうした市民団体もまとまってプラットフォームにしていくことが重要で、そのプラットフォームのキーという

か、中核になるのがこの DMO なのだろうと思っています。

では行政はどうかというところなんですが、行政もとても大切で、かつては観光課、観光振興課だけが観光振興をやっていたのかもしれませんが、これは文化財の問題であれば教育委員会、観光交通の問題でしたら交通政策課、それから河川の問題であれば河川整備課、道路の問題であれば道路整備課などといったオール行政にフォローしていただくという体制が必要です。それからさらに重要なのは、地域の研究機関です。大学などもそうだと思いますが、そういったところがプラットフォームを支えていく、横から支援していくという体制が望ましいと考えています。その中核になるのがこの DMO なのではないかと思っています。

DMO とは、という話で一番重要なのが「科学的アプローチ」を取り入れるということだと思います。今まではずっと勘と経験で観光施策、観光振興をやってきたところがあると思いますが、今やビッグデータという形で、人の移動なども随分取れるようになってきています。こうした観光データをきちんと取りながら、科学的に物事を進めていくことが重要だと思います。つまり財源もマンパワーも限られている中で、効果的な政策、対策を打つためにはやはりこういった科学的なアプローチが必要だろうということで、簡単には言えばきちんとマーケティングをやるということですね。そのデータなどエビデンスをきちんと収集してやっていくのが DMO だと思います。

今、観光庁がやっている DMO の登録制度というのがあり、認定の要件なども五つあります。合意形成の話だとか、今お話したデータを取り、しかも KPI という目標数値を設定して、きちんと PCDA サイクルで回していく。こういったことをやっていくと、目標もきちんと明確になるし、それを達成したのか、してないのかということもはっきりしてくるということですね。こうした要件を満たした組織が DMO として認定されるわけです。

それから、今のコロナの関係で、事業者を感染拡大防止という観点できちんと巻き込んでいく、そういったことをきちんとやっていく組織ということで、DMO は重要な役割を果たします。現在は DMO のことを「観光地域づくり法人」という言い方をしているのですが、まずは候補法人となり、それから登録認定となると、さらに「重点支援 DMO」という施策があります。今、全国に重点支援 DMO が 32 あるのですが、これになると国の支援も非常に受けやすいということになります。やはり資金が中々潤沢にないというのが、どこも課題だと思いますし、それからコロナ禍で今会費がほとんど集まらない観光協会さん、犬山市さんはどうされているのかわかりませんが、観光協会費が中々払えないというようなところも随分出てきているみたいで、国は国際観光旅客税という（インバウンドは減ってしまいましたが）財源は持っています。その国の潤沢な

財源を引っ張ってくるということを今はやっていかないといけないです。その後は、自立、自走していかなければいけないのですが、こういうこともしながら、少しずつやっていかなければと思っておりまして、そのためにはやはり受け皿となる DMO という機能、あるいは組織、さらには新しい観光推進体制が必要になるかなと思っております。

服部部会長

ありがとうございます。

次回、まとめ3回目の部会をやる時に、組織というか、推進体制の話も大きな課題の一つになると思いますので、また皆様用意していただいて、ご意見いただければと思います。今日は時間になりましたので、これで閉じさせていただきます。よろしいでしょうか。それでは事務局にお返ししたいと思います。

事務局

服部部会長、それから各委員の皆さんありがとうございました。

それでは次第の最後、その他でございます。

本来ならば、次回の開催日程ということで報告をさせていただきますが、この点について少し事務局の方から報告させていただきます。

事務局

皆様お疲れ様です。

第6回の専門部会について、過日皆様にスケジュール確認をさせていただきました。ご協力ありがとうございました。ですが、誠に残念ながら、調整が上手くできず、皆様ご都合の良い日が合わなかったのが現状でございます。つきましては、大変恐縮ですが再度、別日でスケジュールを調整させていただきたいと思っております。また別途メールでのやりとりになりますが、皆様に候補日を再度開示し、お知らせさせていただければと思います。別途、服部部会長と相談させていただいた上で、皆様に展開いたしますので、よろしく願いいたします。

事務局

日程調整については、また後日メールでということでもよろしく願いいたします。それではこれもちまして、第5回観光戦略会議専門部会を閉じさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

